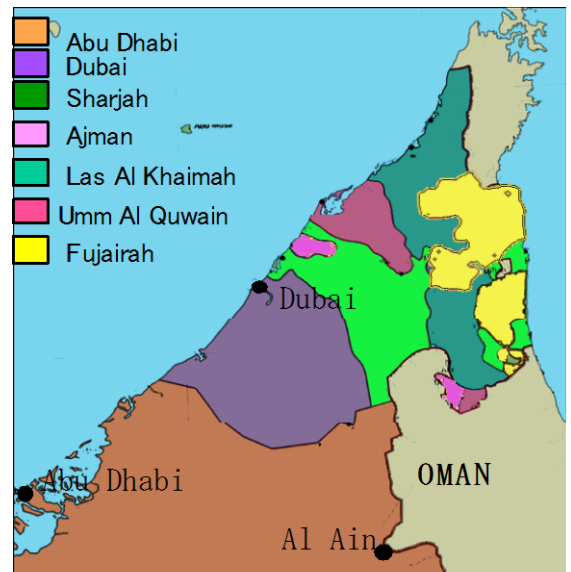


AAINews

アブダビ、アルアイン近況

アブダビ首長国の東に位置する砂漠の中のオアシスの町”アルアイン”。確かに砂漠のまっただなかですが、さすがはこの地域での昔から重要なオアシスの町は現アラブ首長国連邦（UAE）の大統領の出身地でもあり、緑（ただし灌水チューブという生命維持装置付きが大多数）が至る所に見られます。UAEやオマーンのローカル（土地っ子）や外国人労働者のたむろするスーク（市場）も、もともとのアルアインオアシスの中心部にほど近いところにあります。買い物は、車さえあればなに不自由なく、ドバイやインド洋側から運ばれてくる魚、またアルアイン周辺で生産される野菜や近隣諸国から輸入される野菜、果物類も豊富に出回っています。大きなスーパーマーケットでは豆腐やしょうゆも手に入ります。お味噌などほとんどの日本食はアブダビかドバイまで行けば手に入ります。



UAEの北部、各首長国配置

ここアルアインに来た当初（1994年4月）はドバイやアブダビのような建設ラッシュもなく静かな学園都市（ドバイの出身者曰く、”村”）だなあという印象でした。しかし、近頃は2年前とは違って、町の南にあるハフィット山（海拔約1200mの岩山）のてっぺんのシェイクの宮殿のそばに20階建てのホテルを建設するだの、ふもとの温泉の周りをリゾートにするだの、郵便局向かいの市民公園の中にシェラトンホテルが建設される予定だだの、そのわきに大きなショッピングモールをつくるだの、色々な建設関連のうわさが飛び交っています。

それにしても、アルアインへの人口集中は年々増しているようでそれだからこそ開発も増えているのですが、水不足も年々深刻になってきており、近々各家庭に水道メーターが取り付けられるとのこと。数年前からアルアインは水の自給が不可能になっており、アブダビからの海水淡水化プラントからの給水に依存している状況です。農業開発にしても植林計画にしても節水灌漑手法を真剣に考えねばならぬ状況にあると思うのは我々外国人だけでしょうか。（東海林、アルアインにて）



市内の近代的スーパーマーケット



アニマルスーク(上段)と野菜スーク